

令和 4 年 5 月 16 日現在

機関番号：32639

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00830

研究課題名(和文) 英語学習における動機づけの変容過程と教師要因の関係

研究課題名(英文) The relationship between motivational processes and teacher factors in English learning

研究代表者

森本 俊 (MORIMOTO, Shun)

玉川大学・文学部・准教授

研究者番号：40755899

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、教師のどのような言動が学習者の英語学習に対する動機づけの減退に繋がるか、計量テキスト分析を通して明らかにし、その知見を大学の英語教員養成課程や現職の英語教員研修にどのように活用できるかについて検討することを目的として実施した。その結果、「説明・解説の質」や「授業の進度」、「教師の発音」をはじめとする諸要因を同定した。また、英語教員養成課程の学生を対象とした授業実践を通し、動機減退をテーマとした学修機会の重要性を論じた。最後に、研究で得られた知見を基に作成した授業改善シートを活用することにより、動機減退を引き起こす教師要因という視点から授業改善を促すことができる可能性を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通して、教師のどのような言動が学習者の英語学習への動機づけを減退させるのかについて具体的に明らかにすることができた。また、研究を通して得られた知見を英語教員養成課程受講生向けの授業で扱うことにより、将来英語教師を目指す学生にとって有益な視点を提供することができることが示唆された。本研究で作成した授業評価シートを活用することにより、動機減退を引き起こす教師要因の視点から教師が自身の授業実践を振り返り、改善を図ることが可能となる。動機減退という現象は英語教育学の中で近年注目を浴びている分野であるが、その知見を活用することでわが国の英語教育の改善に資することが示された。

研究成果の概要(英文)：The aims of the present research project were to investigate how teacher factors affect learners' motivation to learn English through quantitative text analysis, and to explore how the findings can be applied to prospective and in-service teacher trainings. A series of specific teacher factors such as the quality of explanations, pace of instruction and teachers' pronunciation were identified through the research. Based on the findings, it was shown that having a class about demotivating teacher factors, which are usually not fully treated in English teacher training programs, will raise prospective teachers' awareness of the importance of those factors. Finally, a class evaluation form based on the findings of the project was developed in order to encourage teachers to reflect upon their instructions in light of demotivating teacher factors.

研究分野：英語教育学

キーワード：動機減退 教師要因 動機づけ 英語学習 英語教員養成

1. 研究開始当初の背景

英語教育学において、動機づけ(モチベーション)研究は確固たるフィールドを形成してきたが、その主眼は「教師がいかに学習者の動機づけを高めることができるのか」に置かれてきた。その流れの中、近年、動機減退(demotivation)という概念に注目が集まっている。動機減退とは、学習当初に存在した意欲が何らかの外的な要因によって低下または消失する現象であり、それを引き起こすさまざまな要因が先行研究を通して明らかとなってきた。動機減退には様々な要因が含まれるが、本研究ではその中でも最も学習者に対する影響度が高い要因の一つである教師要因(teacher factors)に着目し、教師のどのような言動が学習者の英語学習の動機付けの減退に繋がるのかについて、計量テキスト分析という手法を用いて調査を行った。また、先行研究を通して動機減退を引き起こす教師要因が明らかになってきたが、その知見を大学の英語教員養成課程の授業や現職英語教員を対象とした研修においてどのように活用すべきかについての議論は依然発展途上である。以上の背景をもとに以下の3つの研究課題を設定した。

研究1: 計量テキスト分析を用いた学習者の動機づけを減退させる英語教師要因の研究

研究2: 英語教員養成課程におけるアクティブラーニング型オンライン授業の可能性 - 『動機減退を引き起こす教師要因』をテーマとした事例 -

研究3: 動機減退を引き起こす教師要因研究に基づいた授業評価シートの開発 - 英語教員養成及び現職教員研修における活用の可能性 -

2. 研究の目的

本研究プロジェクトの目的は、以下の3点である。

- (1) 教師のどのような言動(教師要因)が学習者の英語学習に対する動機づけの減退を引き起こすのかを、計量テキスト分析を通して明らかにする。
- (2) 先行研究及び(1)で得られた知見を、英語教員養成課程の学生に対する授業実践にどのように活用できるのかを考察する。
- (3) 本研究で得られた知見を基に英語教員養成課程の学生及び現職英語教員が動機減退を引き起こす教師要因という視点から自らの授業を省察し、改善を図ることができる評価シートを開発する。

3. 研究の方法

(1) 研究1

参加者

関東圏にある2つの私立大学に在籍する大学生計302名(男:117名,女:185名)

アンケート調査

アンケートは参加者のバイオデータと自由記述式の設問1つから構成された。設問は、「中学・高校時代に英語の授業を受けた先生の中で、英語学習へのやる気が下がった先生の特徴を具体的に説明してください」という内容であった。

手順

参加者には、筆者が担当する英語の授業終了時にアンケートについての説明を行い、授業時間外に回答するよう求めた。所要時間は約10分であった。

データ分析

参加者から得られたデータをMicrosoft Excelで集計し、KH Coder 3(樋口, 2014)を用いて計量テキスト分析を実施した。

(2) 研究2

参加者

関東圏の私立大学の英語教員養成課程に在籍する3年生33名(男子:20名,女子:13名)

授業内容

2021年5月17日(月)の7・8限に実施した。授業テーマは「動機づけを減退させる教師要因」であり、教師のどのような言動や特徴が学習者の英語学習に対する動機づけを減退させるのかについて理解を深めることを目的とした。

本時の授業の特徴は、(1) グループのメンバーが別々の情報を持ち、それをグループで共有・精査しながら課題を遂行するというジグソー法を採用したこと、(2) Google Documentを使った文書の共同編集作業を課したこと、の2点を通して主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)を実現しようと試みたことである。共同で文書を作成する過程で情報の整理や関連付け、分類といった認知的プロセスが求められるため、思考・判断・表現力の育成にも資することが期待された。

データ収集及び分析

本授業に対する学生の評価を得るため、Google Formsを使ってアンケートを作成した。アン

ケートは授業終了時に LMS 上に提示し、授業時間外に回答するよう求めた。アンケートの所要時間は約 20 分であった。結果の分析は Google Forms 上に保存された回答データをもとに、Microsoft EXCEL を使って行った。

(3) 研究 3

本研究では、Kikuchi and Sakai (2009) や Sakai and Kikuchi (2009), Liu (2020), 森本 (2020) らの先行研究を踏まえ、動機減退を引き起こす教師要因の視点からの授業評価シートの試案を作成した。評価シートは「A. 授業構成」、「B. 説明・解説」、「C. 教師の発話(日本語・英語)」、「D. 生徒との関わり合い」の 4 つのカテゴリーから成り、それぞれに対して下位項目(計 36 項目)が含まれている。それぞれの項目の下には 5 段階の尺度が提示されており、「1」が「全く当てはまらない」、「2」が「やや当てはまらない」、「3」が「どちらでもない」、「4」が「やや当てはまる」、「5」が「大いに当てはまる」を表す。この中から自身の授業実践について最もよく当てはまるものを 1 つ選択し、丸で囲む形式である。

4. 研究成果

(1) 研究 1

本研究では、Kikuchi and Sakai (2009) と Sakai and Kikuchi (2009), Liu (2020) らの先行研究において挙げられた動機減退を引き起こす教師要因のうち「教員の能力と指導スタイル」及び「コミュニケーションではない教授法」に焦点を当て、自由記述式アンケートの回答を、計量テキスト分析を通して分析した。その結果、それぞれの頻度は異なるものの、上記先行研究で挙げられた全ての項目を支持する結果が得られた。また、「分かりづらい説明」と「一方的な説明」の分析においては、「説明・解説の欠如」や「質問・相談に対する不適切な対応」といった、今までの研究において焦点の置かれていなかった側面も明らかとなった。計量テキスト分析は、語の出現頻度や共起関係を定量的に扱うのと同時に、それぞれの語がどのような文脈で用いられているのかを特定するのが容易であり、定量的な分析によって得られた知見を新たな角度から検証するアプローチだと言えよう。例として、本研究では「間違いをバカにする態度」という要因を分析したが、計量テキスト分析を通して教師が生徒のどのような行動に対してどのような態度を取り、どのような言葉を発したのかを具体的に捉えることが可能となる。以上に加え、計量テキスト分析を通して研究者は自由記述式回答をコーディングする際に着目すべき語を知ることができる点も大きな利点である。

(2) 研究 2

本研究では、英語教員養成課程の学生が (1) 動機減退という学修内容に対してどのような反応をし、(2) ICT を活用したアクティブラーニング型オンライン授業をどのように評価するのか、の 2 点に着目した。前者については、アンケートの質問、
、
への回答を通して、大多数の学生にとって興味深く、教職を志す上で有益な内容であったことが示唆された。教師は往々にして授業内容や方法に意識が向いてしまう傾向があるが、児童・生徒とのコミュニケーションの取り方や人間性といった要因が英語学習に対する動機づけを減退させることに気が付くことができたのは、学生にとって大きな収穫であったと言える。本授業では、15 回中 2 回を動機づけに関する学修に充てることができたが、他の学修項目とのバランスを取りながら、今後も可能な限り扱う機会を確保することが求められる。

後者については、全体的な満足度は高く、ジグソー法や Google Document を活用したアクティブラーニング型オンライン授業を通して積極的な授業参加及び学修内容の深い理解を図ることができたことが示唆された。本実践で得られた知見を踏まえ、これからの本学における英語教員養成課程の更なる充実化を図っていきたい。

(3) 研究 3

開発した評価シートの試案の詳細は森本(2022)を参照されたい。本評価シートの活用を通して、授業を担当する教師自身のみならず、他の教員や生徒と観点を共有することで、授業における動機減退要因を抑制し、より多くの生徒が意欲的に英語学習に取り組むことができる環境を実現することが可能となるだろう。授業評価に関しては、J-POSTL(清田他, 2020)をはじめとした様々なツールが開発・実践されているが、本授業評価シートを組み込むことにより、より多面的に授業改善を図ることに繋がるだろう。尚、本研究で提示した授業評価シートはあくまでも試案であり、取り上げる項目の再検討や文言の調整等の余地が残されている。実際に教員や生徒に回答してもらうことによって、文言の理解のしやすさや回答のしやすさ、他に追加すべき項目の有無などの観点から改善を図っていくことが必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 森本 俊	4. 巻 61
2. 論文標題 計量テキスト分析を用いた学習者の動機づけを減退させる英語教師要因の研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『論叢』玉川大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森本 俊	4. 巻 11
2. 論文標題 英語教員養成課程におけるアクティブラーニング型オンライン授業の可能性 - 「動機減退を引き起こす教師要因」をテーマとした事例 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教師教育リサーチセンター年報	6. 最初と最後の頁 83-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森本 俊	4. 巻 62
2. 論文標題 動機減退を引き起こす教師要因研究に基づいた授業評価シートの開発 - 英語教員養成及び現職英語教員研修における活用の可能性 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『論叢』玉川大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 93-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------